



無所属
いとうまり

環境省登録 環境カウンセラー

やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクト事務長
山梨県立男女共同参画推進センター「集約」問題を考える連絡会事務局
やまなしエコティチャー（山梨県登録）
KAERU POWER PLANT 主宰
かえっこカエルクラブ代表

へん、だよね？

男性ばかりの山梨県議会

ジェンダー平等 世界最低レベルの日本。
ジェンダー平等 日本最下位の山梨県議会。



このたびいとうまりさんが、「山梨のジェンダー平等の推進」を掲げて、再び県議選への立候補を決断したことを、全面的に支持します。現在山梨県民の50・9%は女性です。にもかかわらず、女性県議はたった1人の？7%。議会は、質問する議員、答弁する行政ともに圧倒的な男性社会です。この景色が「異常」であることを、私たちは認識すべきでしょう。これでは「ジェンダー平等後進県」を脱することなどできません。

若い女性たちの県外流出が続き、地域崩壊が起こり始めています。圧倒的に多くを女性が担ってきた子育てや介護、DVや女性と子どもの貧困、女性の性と健康をめぐる課題など、女性の代表をもっと議会に送らなくては、当事者の実情や声にきめ細かく対応した政策は立てられません。伊藤さんは、強い意志を持って様々な地域活動を継続してきました。そして常に学ぶことを忘れない。それが活動の「芯」になっています。

◆子育てや介護の現場、生活全般を担う女性たちの悲鳴にも似た声が、県政に届かないのはなぜでしょうか。

県が、県立男女共同参画推進センター3館のうち2館を閉鎖するという突然の新聞報道に驚いた女性たちは、県議会へ2館の存続を求める請願書を提出し、その後、1万5千筆を超える賛同署名も集めました。それなのに、県は2館を閉鎖する決定をしてしまいました。

県立男女共同参画推進センターの前身は、女性たちの願いや運動、募金で建てられた「婦人会館」です。この問題は、知事および県が、女性たちの声を重視していないことがよくわかるひとつの事例といえるでしょう。

女性の声を直接県に届けるには、女性としての生きづらさを、身をもって訴えることができる、女性の県議会議員が必要です。

SDGs 持続可能な未来のために
山梨県議会に女性の議員をふやそう

いとうまりさんを推薦します。

- ◎やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクト代表
- ◎山梨県立男女共同参画推進センター「集約」問題を考える連絡会 世話人
- ◎山梨県立大学名誉教授

池田 政子



課題に直面し、解決のためにアクションを起こし、さらに学びを重ねる取り組みの中で、たくさんの人と人をつなげてきました。私が伊藤さんに出会ったのも、20年前の男女共同参画についての学習の場です。以来、その成果を県男女共同参画推進リーダーとして、また笛吹市男女共同参画推進委員として活かし、仲間とともに発信する活動をしてきました。積み重ねた活動経験の中で見えてきた多くの課題について、自ら議員になることによって全力で解決にあたる道を、勇気をもって再び選びました。

ジェンダー平等は
全ての政策の土台です。

県議会議員になれば、これまでに培った多くの方々とのネットワークを支えに、みなさまの声を聴きながら、その本領を発揮してくれるでしょう。ぜひともご支援くださいますよう、よろしくお願い致します。